

鳥取県におけるニッポンハナダカバチ (アナバチ科) の分布

川上 靖¹・干村隆司²¹ 〒680-0011 鳥取市東町2-124 鳥取県立博物館

E-mail: kawakamiy@pref.tottori.jp

² 〒683-0101 米子市大篠津町190 米子市立大篠津小学校

Yasushi KAWAKAMI¹ and Takashi HIMURA² (¹ Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan / ² Ôshinozu Elementary School, Ôshinozu-cho 190, Yonago City, Tottori Pref., 683-0101 Japan): **Distribution of the sand wasp *Bembix niponica* (Hymenoptera: Sphecidae) in Tottori Prefecture, Honshu, Japan.**

キーワード — ニッポンハナダカバチ, 新産地, 生息環境, 保全, 鳥取県

Abstract — Six localities of the sand wasp *Bembix niponica* (Hymenoptera: Sphecidae) are newly recorded from Tottori Prefecture, Japan. All the localities are the sands in graveyards or in the precincts of shrines.

Key words — sand wasp, *Bembix niponica*, new localities, habitat, conservation, Tottori Prefecture

はじめに

ニッポンハナダカバチ *Bembix niponica* F. Smith, 1873 (アナバチ科ドロバチモドキ亜科) は、好んで砂地に営巣する日本固有種のカリバチ類であり (常木, 1948), 海浜とその周辺の開発などが営巣地の喪失をもたらしている (遠藤ら, 2007; 前田, 2002)。そのため, 環境省版レッドリスト (2006) で準絶滅危惧に, 鳥取県版レッドリスト (2002) で絶滅危惧Ⅱ類に選定されており, そのほか15道県でレッドリストに掲載されている。鳥取県における本種の生息地は, 古い記録として鳥取砂丘 (東, 1939; 野村, 1978), 1990年以降では鳥取市湖山町と鳥取市白兔神社の2カ所しか確かな記録がなく (前田, 2002), 本県の中部・西部地区からは知られていない。私たちは, 鳥取県内全域にわたる6カ所で, 新たに本種の生息地 (営巣地) を確認したので報告する。また, 本種の生息環境の状況をふまえ, その保全対策についても考察する。

確認記録

2008年7月～8月に鳥取県内の砂浜海岸および海岸近くの神社と墓地の22カ所を目視調査した。調査時間は1カ所につき1～3時間程度で, 地面を飛ぶ個体と巣穴を出入りする

個体をくまなく探した。その結果, 7カ所でニッポンハナダカバチとその巣を確認した (表1, 図1-3)。鳥取市の白兔神社を除く6カ所は新産地である。米子市大篠津町和田御崎神社, 東伯郡北栄町妻波, 鳥取市青谷町の3地点からは, それぞれ雄1個体を採集して標本にした (図2)。標本はすべて鳥取県立博物館に保管されている。生息が確認された7カ所は, すべて神社境内および墓地内の砂地であった (表1, 図3)。また, 目視により間違いなくカウントできた最低限の巣穴の数も記録に残した (表1)。

次に列挙する15カ所からは, 今回調べた限りでは本種を見つけることはできなかった。

米子市: 諏訪神社, 富益神社, 大崎神社, 粟嶋神社, 弓ヶ浜海岸 (弓ヶ浜展望台), 大篠津海岸, 和田浜海岸, 米子ゴルフ場北側の海岸, 皆生海岸, 日吉津海岸, 淀江海岸 / 大山町: 松河原の海岸 / 琴浦町: 天乃神奈斐神社, 花見瀉墓地 (海岸にある西日本最大級の自然発生墓地), 諏訪神社。

神社・墓地以外の自然海岸については上述の8カ所を調査したが, どの自然海岸からもニッポンハナダカバチを確認することはできなかった。

考察

本調査により, ニッポンハナダカバチは, 局地的ではある

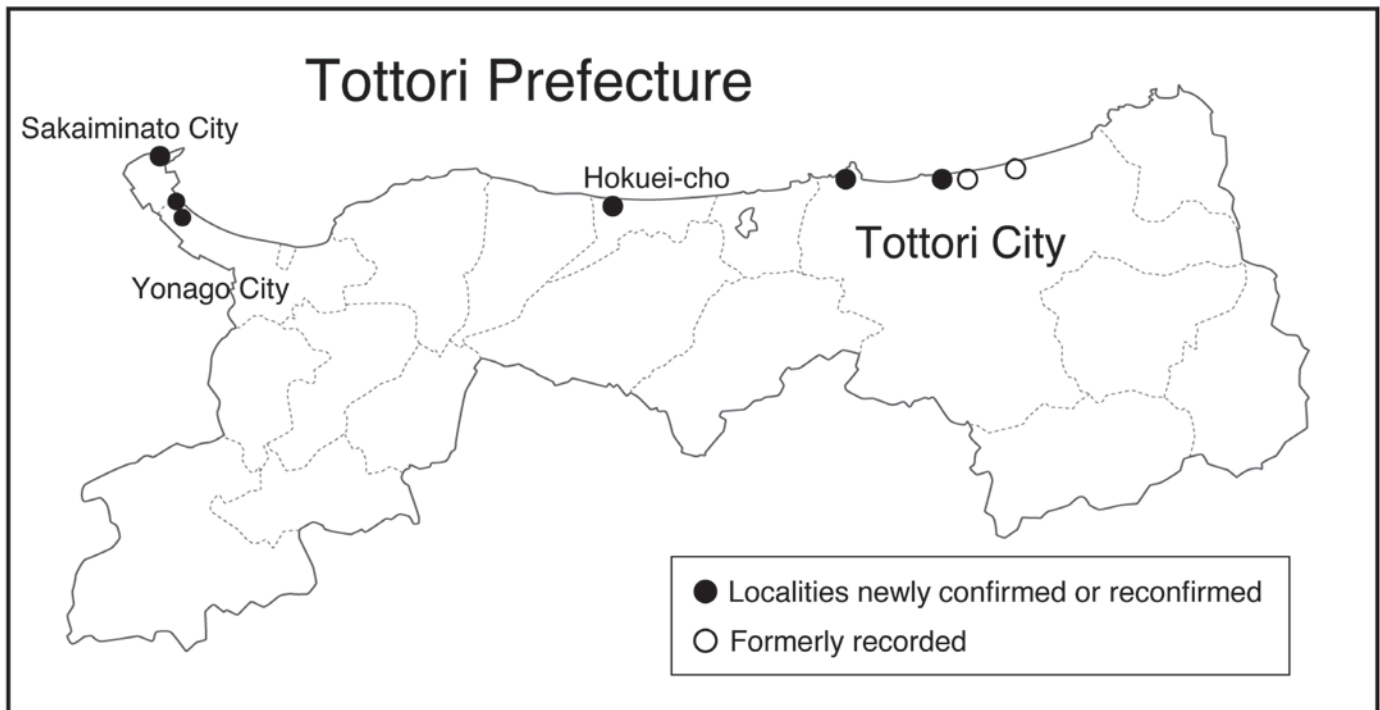


図 1. 鳥取県におけるニッポンハナダカバチの産地。○は文献上で記録のある産地 (東, 1939; 野村, 1978; 前田, 2002)。

Fig. 1. Distribution of *Bembix niponica* in Tottori Prefecture. Open circles are localities formerly recorded (Higashi, 1939; Nomura, 1978; Maeta, 2002).

表 1. 2008 年に新たに確認された鳥取県におけるニッポンハナダカバチの生息地。

Table. 1. Localities of *Bembix niponica* in Tottori Prefecture. Six sites excluding an already-known habitat of the Hakuto Shrine were newly discovered during the present survey in 2008.

場 所 Localities	調査日 Date	巣穴の数 Number of nests	生息環境 Environments	確認者 Confirmed by	備 考 Notes
境港市入船町 墓地 (台場公園近く) Graveyard (Nyusen-cho, Sakaiminato City)	22-VIII-2008	4	墓地 (砂地) sandy places in graveyard	TH	Fig. 2, 3
米子市大篠津町 墓地 (国有地近く) Graveyard (Oshinozu-cho, Yonago City)	26-VII-2008	3	墓地 (砂地) sandy places in graveyard	TH	
米子市大篠津町 和田御崎神社 Wada-misaki Shrine (Yonago City)	6-VII-2008~ 24-VII-2008	20以上 ca. 20 and more (6-VII-2008)	境内 (砂地) sandy places in the precincts	TH & YK	Fig. 2, 3
米子市富益町中富益 墓地 Graveyard (Tomimasu-cho, Yonago City)	11-VII-2008	20以上 ca. 20 and more	墓地 (砂地) sandy places in graveyard	YK	Fig. 2, 3
東伯郡北栄町妻波 墓地 Graveyard (Tsumanami, Hokuei-cho)	24-VII-2008	15以上 ca. 15 and more	墓地 (砂地) sandy places in graveyard	YK	Fig. 2, 3, 4
鳥取市青谷町青谷 墓地 (青谷小学校北側) Graveyard (Aoya, Tottori City)	24-VII-2008	10以上 ca. 10 and more	墓地 (砂地) sandy places in graveyard	YK	Fig. 3, 4
鳥取市白兔 白兔神社 Hakuto Shrine (Tottori City)	24-VII-2008	20以上 ca. 20 and more	境内 (砂地) sandy places in the precincts	YK	Fig. 3 既知産地 known habitat

TH = Takashi Himura, YK = Yasushi Kawakami.

が鳥取県全域に生息していることが明らかになった(表1, 図1)。その営巣環境をみると, 本種とその巣を確認できたのは神社境内と墓地内の人為的な砂地であり, 今回, 自然海岸の砂地からは見つけることができなかった。しかしながら, 鳥取県の東側で接する兵庫県北部では小さな砂浜海岸

1カ所, 砂浜海岸に接した人為的な砂地2ヶ所, 墓地1ヶ所の計4カ所で生息が確認されている(遠藤ら, 2007)。西側で接する島根県では1カ所しか知られていないが, それは大社砂丘である(前田, 2004)。鳥取県の砂浜海岸の環境が両県と大きく異なっていることはなく, また古くには鳥取砂丘で

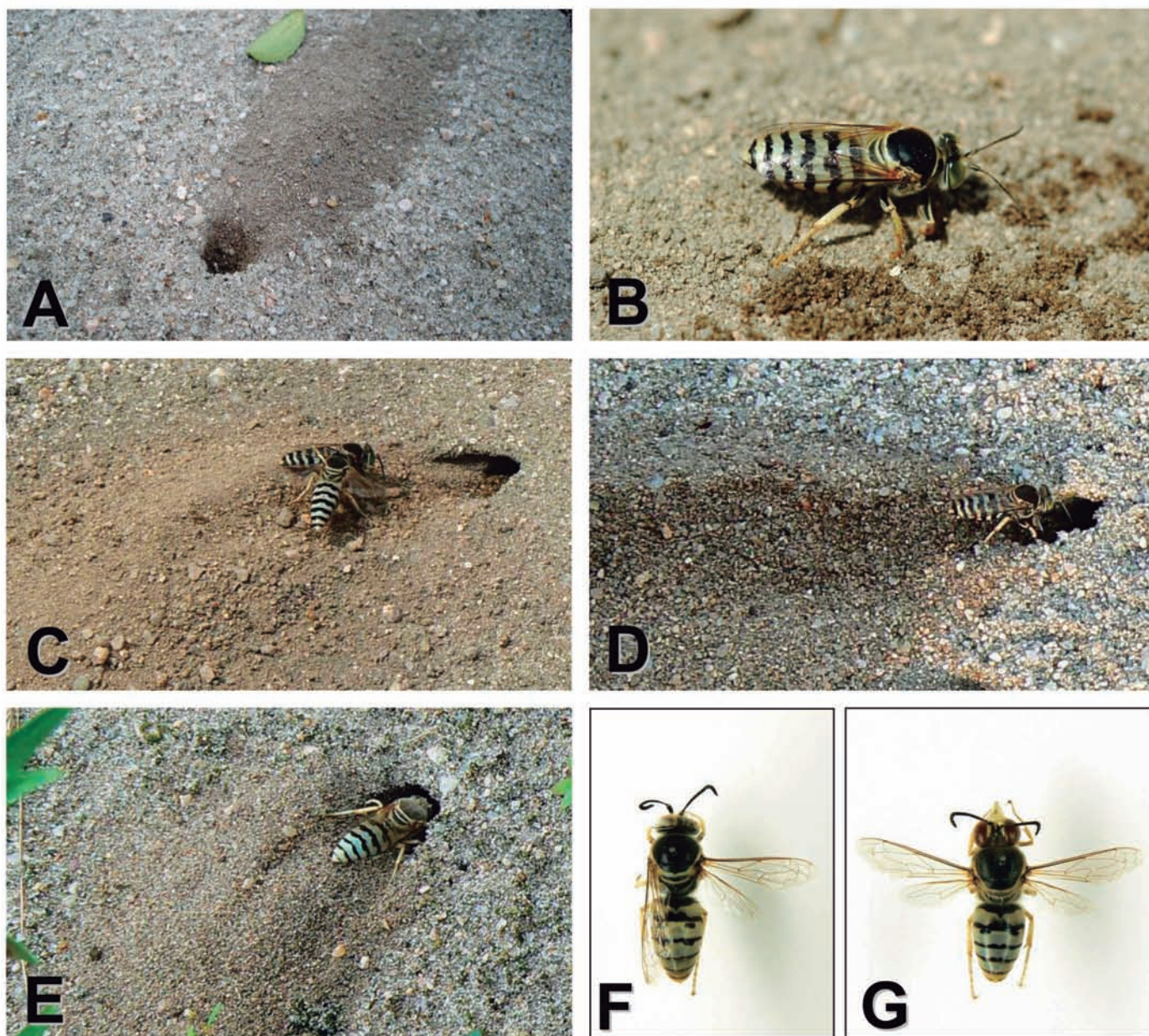


図2. ニッポンハナダカバチと巣穴. A: 境港市入船町(2008年8月22日). B-C, F: 米子市大篠津町和田御崎神社(B, 2008年7月6日; C, F, 7月11日). D: 米子市富益町(2008年7月11日). E, G: 東伯郡北栄町妻波(2008年7月24日). F (♂) とG (♂) の採集者: 川上靖.

Table. 2. *Bembix niponica* and its burrows. A: Nyusen-cho, Sakaiminato City (22-VIII-2008). B-C, F: Wada-misaki Shrine, Yonago City (B, 6-VII-2008; C, F, 11-VII-2008). D: Tomimasu-cho, Yonago City (11-VII-2008). E, G: Tsumanami, Hokuhei-cho, Tohaku-gun (24-VII-2008). Specimens of F (♂) and G (♂) were collected by Y. Kawakami.

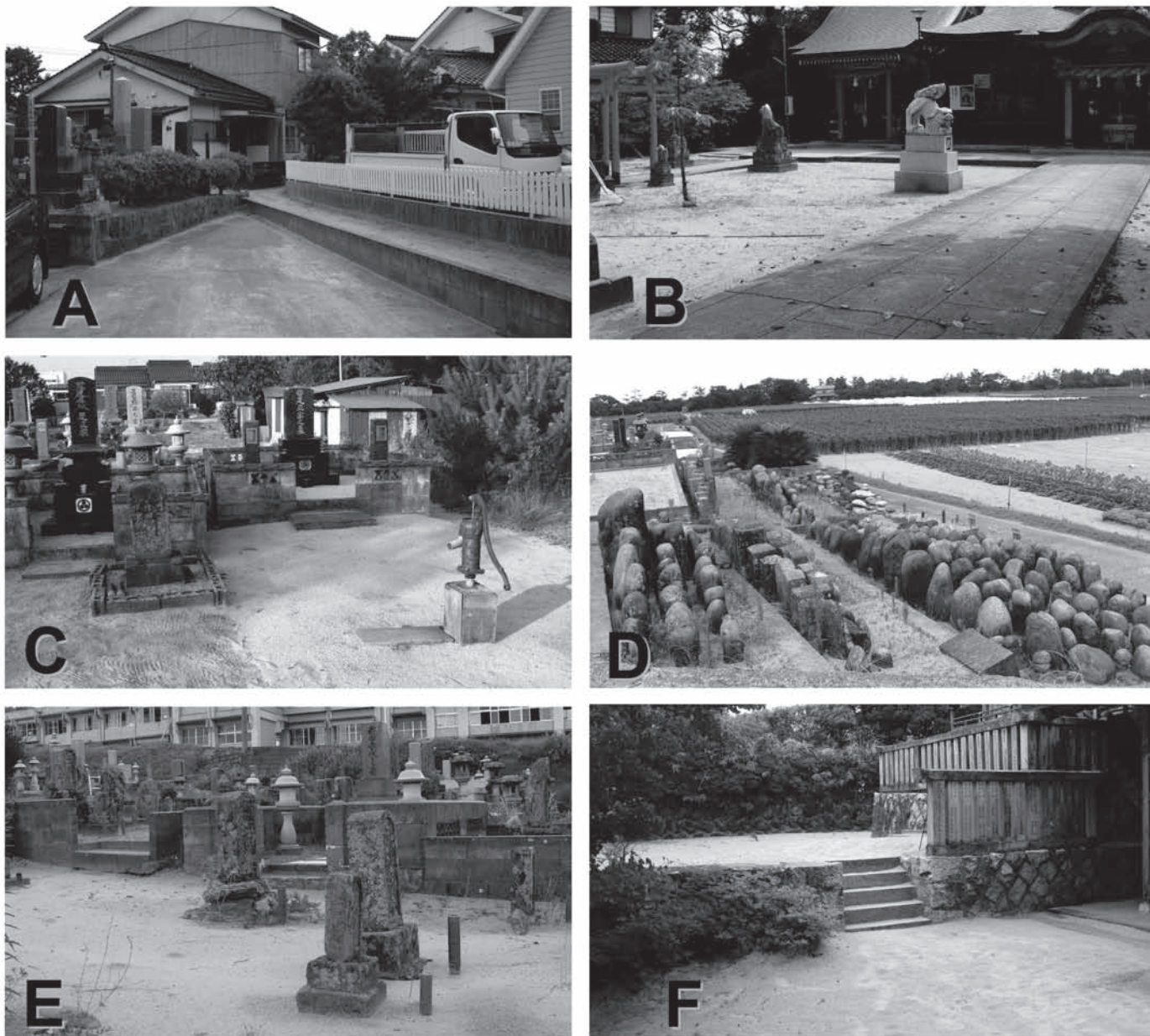


図3. ニッポンハナダカバチの生息地の景観. A: 境港市入船町 墓地. B: 米子市大篠津町 和田御崎神社. C: 米子市富益町 墓地. D: 東伯郡北栄町妻波 墓地. E: 鳥取市青谷町 墓地. F: 鳥取市白兔 白兔神社.

Table. 3. Views of the habitat of *Bembix niponica*. A: Graveyard in Nyusen-cho, Sakaiminato City. B: Precincts of Wada-misaki Shrine, Yonago City. C: Graveyard in Tomimasu-cho, Yonago City). D: Graveyard in Tsumanami, Hokuei-cho. E: Graveyard in Aoya, Tottori City. F: Precincts of Hakuto Shrine, Tottori City.

の記録(東, 1939; 野村, 1978)もあるので, 本県にも本種の生息する自然海岸が存在している可能性は考えられる。今後の詳細な調査が望まれる。

鳥取県の砂浜海岸における本種の生息地の有無は今後の調査が待たれるところだが, たとえ見つかったとしても隣

接県の状況から考えて, きわめて少ないであろう。一方, 神社の境内や墓地では少なくとも7カ所で営巣しており, 同様の環境をもつ神社や墓地を調べれば, さらに増えていくかもしれない。このことは, 現在ニッポンハナダカバチにとって, 神社や墓地の砂地という人為的環境が主要な営巣



図4. ニッポンハナダカバチ生息地内の新たに建て直された墓(A, 東伯郡北栄町妻波; B, 鳥取市青谷町青谷).

Table. 4. Reconstructed graves in the habitat of *Bembix niponica*. A, Tsumanami, Hokuei-cho; B, Aoya, Tottori City.

地となっていることを示唆している。本種がこのような人為的な砂地に営巣している例は少なくはなく、たとえば公園の砂場(久松, 2001), 学校の校庭(田埜, 1964; 中村, 1995), 造成地(須田, 1974), 墓地(遠藤ら, 2007), 京都府の銀閣寺(前田, 2002, 2004)などがある。

ニッポンハナダカバチの営巣が確認された神社境内や墓地に共通することは、管理が行き届き植物のほとんど生えていない、日当たりのよい砂地ということであった(図3)。しかしながら今回の調査では、このような神社や墓地にみられる本種に好適な生息環境が継続していくことは難しいと考えざるを得ない状況もみられた。それは墓の建て替えが徐々に行われており、新しい墓はほとんどすべて地面を砂利やコンクリートで覆う様式になっているのである(図4)。近年、神社においても改修や再整備が行われた場所では、管理に人手が掛からないように地面はコンクリートや石畳、あるいは砂利となっているところをみかける。こういった現状から考えて、墓地や神社などの人為的砂地が本種の営巣適地として継続していく保証はない。したがって、ニッポンハナダカバチは海岸でなくても適した砂地さえあれば生息しているが、本種の保全のためには自然海岸そのものの保全あるいは復元が重要であると思われる。なぜなら、人為的管理がなくても砂地という環境が維持されていく場所は、日本において海岸くらいしかないからである。まずは自然海岸における本種の詳細な生息調査と、合わせて営巣地となる砂地の条件、本種の分散能力などを明らかにしていく必要がある。

謝 辞

有益なご助言をいただいた宮永龍一博士(鳥根大学)と久松正樹氏(ミュージアムパーク茨城県自然博物館)に厚くお礼申し上げます。

文 献

- 遠藤知仁・西本 裕・橋本佳明・中西明德(2007)兵庫県北部の砂浜海岸におけるニッポンハナダカバチの分布. 人と自然, 18: 13-20.
- 東 光治(1939)鳥取地方の砂丘に於ける昆虫相. 関西昆虫学会会報, 8: 25-46.
- 久松正樹(2001)茨城県におけるニッポンハナダカバチ(*Bembix niponica*)の新しい生息地. 茨城県自然博物館研究報告, 4: 95-96.
- 前田泰生(2002)ニッポンハナダカバチ. p. 136. In: 鳥取県自然環境調査研究会動物調査部会(編)レッドデータブックとっとり(動物). 鳥取県生活環境部環境政策課, 214 pp.
- 前田泰生(2004)ニッポンハナダカバチ. p. 113. In: (財)ホシザキグリーン財団(編)改訂しまねレッドデータブック. 鳥根県環境生活部景観自然課, 415 pp.
- 中村和夫(1995)関東地方でのハナダカバチの分布. インセクト, 46: 61-63.
- 野村幸弘(1978)鳥取県砂丘の昆虫類について. 鳥取生物, 10-13: 13-19.
- 須田博久(1974)山で採ったハナダカバチの採集例. 昆虫と

自然, 9 (6): 31.

田埜 正(1964)屋久島の膜翅目. 生物研究, 8: 37-39.

常木勝次(1948)はなだか蜂研究記. 札幌講談社, 303 pp.

Received October 10, 2008 / Accepted October 15, 2008
